

買い物弱者 手助け

よこまち 八戸で移動スーパー開始



移動スーパーで買い物を楽しむ利用者(左から2人目)＝14日、八戸市白銀台7丁目

県内初 高齢者「ありがたい」

スーパーのよこまち(八戸市、横町俊明社長)などによる「移動スーパー」が14日、八戸市内で始まった。初日は専用車両で白銀台地区の住宅街などを回り、移動手段がなく買い物に難しい高齢者らが、サービスを利用した。(金澤一能)

牛乳宅配などを手掛ける南山デイリーサービス(同、南山泰政社長)と共同で実施。先進地に倣った事業で、県内のスーパーでは初の取り組み。東北地方では3県目の導入という。車両には冷蔵庫を積み、生鮮品など400種類千点の商品をそろえる。事前に募った希望者の自宅を訪問する。営業時間は午前10時～午後5時で、月・木曜日に岬台・白銀台地区、火・金曜日に白銀町・大久保地区を運行する。

初日は、岬台・白銀台地区に出向いた。利用第1号となった1人暮らしの佐々

木カツエさん宅は「昔は近くにスーパーがあったし、車で出掛けられたが、今はなかなか外に出られないのでありがたい。これからも使いたい」と喜んだ。運行前に行われた出発式で横町社長は「人口減少で都市部も過疎化が進み、買い物に困っている人はたくさんいる。地域の安全パトロールや安否確認のお役にも立てれば」と話した。今後は、市内だけでなく周辺にも運行エリアを拡大したい考えで、10台の運行を目標に掲げている。